

教科(科目)	国語（現代の国語）	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	精選 現代の国語（東京書籍）				
副教材等	精選現代の国語 学習課題ノート（東京書籍）		基本の現代文（尚文出版） トータルサポート新国語便覧（大修館書店）		

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

・基本的かつ総合的な言語能力を育成するため、

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、漢字の習得と評論・小説に用いられる語句の意味・用法の理解を目指します。
- ② 文章の内容を的確に読み取った上で、自分の考えを言葉で表現して他者と伝え合う力をつけることを目指します。
- ③ 読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、言語文化に対する関心や理解を深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	・常用漢字の読み書きに慣れ、実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、適切に効果的に用いている。 ・話や文章に含まれている情報の扱い方について、その妥当性や信頼性を吟味し、情報の関係性を理解して推論や意見をまとめている。	・自分の考えが的確に伝わるよう、立場や考えを明確にして論理の展開を工夫したり、場や目的に応じて表現する内容や手段を適切に選択して効果的な表現になるよう工夫している。 ・自分の考えが読み手に伝わるよう、論理の展開や根拠を整理し、的確な語句を選んで文章に構成している。 ・論理構成や図表の意図を正しく読んでいる。	・言葉による見方・考え方を働かせ、知識や技能を習得し、伝え合う力を高め、読書に親しみ、自己の向上と言語文化への関心を高め、他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・長期休業明け課題テスト ・定期考査 ・授業での漢字語句小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・レポートや論述文の提出 ・グループ討議とプレゼンテーション などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業時の取り組み ・学習への姿勢 ・表現への意欲 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	自己と他者	4 B「書くこと」	まだ知らない自分に出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、筆者の読書についての考え方を読み取る。 ・「まだ知らない自分」に出会った経験や、予想される機会について考察し、ワークシートに記入して意見を交換する。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・授業への取り組み
4	自己と他者	4 A「話すこと・聞くこと」	わかりやすい説明をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の流れ」を読み、例文ABを比較して違いを考察する。 ・「自分の学校の行事」について、説明に必要な要素を押さえてまとめ、グループで発表し評価し合う。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ発表 ・話し合いと発表への取り組み
5	認識を深める	5 C「読むこと」	今ここにある無数の未知	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、筆者の「旅」について考察し、「本来の旅」のあり方や「未知を発見する旅」について本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。 ・これまでの「旅」の経験から得たものを話し合い、共有する。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・グループ発表 ・授業への取り組み
5	認識を深める	6 A「話すこと」	水の東西	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿おどし」「噴水」の違い、水に対する感じ方の差、日本人と西洋人の水に対するとらえかたの違いを読み取る。 ・西洋と日本の文化や感じ方の違いについて、知っていることや経験を説明文にまとめる。 ・上記をグループやペアで共有し、気づいたことを話し合う。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・説明文の提出と内容 ・グループ発表 ・授業への取り組み
6	言葉と社会	5 C「読むこと」	言葉は世界を切り分ける	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、外国語でコミュニケーションを取ることの難しさを読み取る。 ・言葉の「面」としての意味について、具体例を踏まえて読み取り、まとめる。 ・言葉の働きについて、筆者の主張を踏まえて考察を文章にまとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシートでのまとめ ・作成と提出 ・考察した文章の提出 ・授業への取り組み
7	言葉と社会	5 B「書くこと」	時間と自由の関係について	<ul style="list-style-type: none"> ・二種類の「時間の自由」について、「二つの時間」について論じていることを理解し、通読する。 ・現代人の時間の在り方について、筆者の考えをまとめる。 ・「自由」とは何かを改めて考え、人間の自由と時間の関係について考える。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・要約文の提出 ・授業への取り組み

7 ～ 8	言葉と社会	4 B「書くこと」	調べた情報を説明資料にまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に、説明資料の作り方を確認する。 ・情報の項目をリストアップし、分類と整理をする。 ・端末や書籍から情報を収集し、カードに整理する。 ・収集した情報を整理、取捨選択し、説明資料を作成する。 ・推敲して文章を整える。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・資料作成の過程プリントの提出 ・ワークシートへの取り組みと提出内容
9	共に生きる	6 B「書くこと」	真の自立とは	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、「できる」「できない」の構造とそれが人生に及ぼしている影響について読み取る。 ・現代における「自立」と「独立」、「老い」や『『大人』になること』について考察し、まとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシートでのまとめ作成と提出 ・考察した文章の提出 ・授業への取り組み
1 0	共に生きる	6 C「読むこと」	自立と市場	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、熊谷さんの人物像について考える。 ・比喩表現と具体的な例について検討し、抽象化して意図を読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、「自立」と「依存」の関係について身近にある例をあげて説明し、まとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・要約文の提出 ・授業への取り組み
1 1	共に生きる	4 A「話すこと・聞くこと」	情報を整理しながら話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの種類について理解し、「企画会議」の進め方を確認する。 ・「課題」から一つを選び、グループで話し合いの役割や準備を確認する。 ・グループ毎に話し合い、決定事項や課題を整理し、共有する。 ・クラスで発表し、成果と課題を共有する。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ発表 ・話し合いと発表への取り組み
1 2	世界を広げる	7 B「書くこと」	人工知能はなぜ椅子に座れないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション」「意図」「意味」「物語」などの語句に注意して通読する。 ・「場」と「身体」との関係に注意しながら、「こうした考え方がどのような考え方を指しているか」を読み取り、まとめる。 ・『『自らの人生を生きる』という行為』は、「人間や生物にのみ許された行為である」と筆者が考える理由を、「人工知能」との対比を踏まえて理解し、まとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・要約文の提出 ・授業への取り組み
1 ～ 2	(平和)	10 A「話すこと・聞くこと」	少女たちの「ひろしま」	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読する。 ・筆者が写真集に心を揺さぶられた理由を考察する。 ・筆者が石内氏と話し、気づかされたことを踏まえて、「戦争」「被爆」「人間」「人の生」「意志」「感情」などについて自分の考えをまとめる。 ・上記についてグループワークで意見交換し、ワークシートにまとめて全体で共有する。 ・「広島」「被爆」「核兵器」「世界大戦」などについて調べ、共有する。 ・意見文をまとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・グループ討議への取り組み ・調査レポートの提出 ・授業への取り組み

3	世界を広げる	4 B「書くこと」	論証してレポートを書く	<ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に、論証型レポートの書き方を確認し、自分のテーマを設定する。 ・書籍やインターネットを用いて情報収集をし、論の方向性の設定と絞り込みを行う。 ・「小さな問い」をたて、その問いは論理上どのような配置と展開が効果的か考察する。 ・「論証の方法」を踏まえ、論証を積み重ねつつ全体をまとめる。 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・調査結果とワークシートの提出と内容確認 ・論証型レポートの提出と内容の評価
---	--------	--------------	-------------	--	-------------	--

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 24時間	B「書くこと」 30時間	C「読むこと」 16時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・漢字、慣用句などの小テストを実施します。範囲・実施日は別途指示します。
- ・夏季休業中及び冬期休業中の課題は別途指示します。また、休み明けに課題テストを実施します。

7 担当者からの一言

国語の能力は、すべての学習の基礎となります。さまざまな表現に触れて言語感覚を磨き、優れた作品を味わい、文章を的確に読み取る力とともに思考力・表現力を身につけましょう。授業に主体的に取り組み、家庭学習で予習復習や課題、小テストの準備を確実に、継続して行うことが大切です。そして、日常生活のなかで常に「なぜ」の問いかけと問題意識を持ち、思索を深める習慣を心がけていきましょう。

(担当：渡邊 義孝)

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	東京書籍『精選言語文化』				
副教材等	東京書籍『精選言語文化学習課題ノート』 第一学習社『ダブルマスター古典文法+漢文句形』 第一学習社『ダブルマスター古典文法+漢文句形準拠ノート』 尚文出版『基本の古典』 大修館書店『トータルサポート新国語便覧』				

1 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>総合的な言語能力を育成するため、</p> <p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、様々な文章の読解を通して、集中的かつ持続的な読みの力の向上を目指します。</p> <p>② 古典に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、言語文化に対する関心や理解を深めることを目指します。</p> <p>③ 文章の内容を的確に読み取り、自分の考えを言葉で的確に表現し、適切に意思疎通を行う力を高めることを目指します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト)の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査)の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・意見文等の提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・作業プリント、授業ノート等の提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 ・ 5	随筆	4 「C読む こと」	東直子 「言葉を 届ける」	1 恋愛をテーマにした作品(小説・詩・短歌など)で印象に残っているものについて発表する。 2 それぞれの短歌に詠まれた愛の在り方に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 3 「花水木の……」の短歌から筆者がどのようなことを考えているか捉える。(手引き2) 4 「やは肌の……」と「道を云はず……」の短歌から筆者がどのようなことを考えているか、時代背景を踏まえて捉える。(手引き3) 5 「年を経て……」の短歌に対する筆者の見解を踏まえて、最終段落の「普遍的な願い」とはどのようなものか考える。(手引き4) 6 感想をまとめる。	a b c b b	テスト(分析) ノート(記述の確認) ※全体 発表(行動の観察) ※1について 感想文(記述の確認) ※6について
	古文入門	3 「C読む こと」	児のそら 寝	1 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。(手引き1・古文学習のしるべ1) 2 児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。(手引き2・3) 3 現代語訳する際の注意点を理解する。(古文学習のしるべ1)	a b c	テスト(分析) ノート(記述の確認) ※全体
	漢文入門	4 「C読む こと」	訓読の基 本	【訓読】 1 基本構造「主語・述語」と句読点・送り仮名・書き下し文について理解する。 2 基本構造「修飾語・被修飾語」を理解し、句読点・送り仮名・書き下し文に慣れる。 3 基本構造「述語・目的語(補語)」と返り点について理解し、書き下した上で現代語訳する。(手引き1) 4 漢文の基本構造と、訓読に関する基本的な知識について確認する。(手引き2) 【格言】 1 前半の七つの格言を音読し、既習の訓点の知識を確認し、返読文字と一レ点の用法について理解する。(手引き1・2) 2 後半の五つの格言を音読し、助字、置き字と上・中・下点、ハイフンの用法について理解し、書き下し、現代語訳する。(主な置き字とその用法) 3 「訓読」で学習した訓点の知識に加え、返り点、返読文字、置き字について整理した上で書き下し文にし、また漢文の意	a b c	テスト(分析) ノート(記述の確認) ※全体

			<p>味を考えて訓点を施す。(手引き1・2・3)</p> <p>【再読文字】</p> <p>1 「未来」「将来」の熟語から、再読文字の用法を理解する。</p> <p>2 「再読文字」の格言を、訓点に従って音読し、書き下し、現代語訳して、各再読文字の用法について確認する。 (書き下し文のきまり・再読文字の種類と用法)</p> <p>3 「学習の手引き1・2」に取り組み、再読文字の用法に慣れる。(手引き1・2)</p> <p>4 漢和辞典の使い方を確認する。(漢字の読みと意味 漢和辞典を活用しよう) (課題1・2)</p> <p>1 「格言」の十二の格言と、再読文字の八つの格言の中から、それぞれ興味・関心を持った格言を使った例文を作り、話し合う。</p> <p>2 漢文訓読に関する基礎知識について復習する。</p> <p>【矛盾】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。(手引き1・2)</p> <p>3 「矛盾」の意味を確認し、「矛盾」を使った短文を書く。(語句と表現1)</p> <p>4 『韓非子』において「矛盾」が儒家批判のための寓話であったことを理解する。 (漢文の窓1)</p>	a b c	テスト(分析) ノート(記述の確認) ※全体
定期テスト (1学期中間)					

5 ・ 6 ・ 7	小説1	7 「C読む こと」	芥川龍之 介 「羅生 門」	<p><第1時></p> <p>1 全文を通読し、時代背景を確かめる。(手引き①)</p> <p>2 場面の變化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。(手引き②)</p> <p>3 「作者」の説明に従って、「下人」の内面の状態を具体的に読み取り、まとめる。(手引き③1)</p> <p>4 「作者」の説明に従って、「下人」の行動を順に従って整理する。</p> <p>5 「下人」の内面の變化を順に従って整理する。(手引き②)</p> <p><第2時></p> <p>1 「下人」と「老婆」の行動を順を追って整理する。</p> <p>2 「下人」と「老婆」の会話部分の意味を読み取り、まとめる。(手引き④1)</p> <p>3 「下人」の内面の變化を、變化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き②③2④2)</p> <p>4 「下人」の内面を「作者」が説明している部分を抜き出し、「下人」と「老婆」のほかにも、もう一人の登場人物(陰のような人物)がいる小説の構造について考え、まとめる。(手引き③2)</p> <p><第3時></p> <p>1 「黒洞々たる夜」という表現に留意して、「老婆」のその後について考える。</p> <p>2 「下人の行方は、誰も知らない。」という末文の意味を考える。(手引き⑤)</p> <p>3 小説の主題について、自分なりに考えて発表する。</p> <p>4 「老婆(下人)」の発言についてどのように思うか考えをまとめて討論する。(言語活動)</p> <p><第4時・5時></p> <p>感想をまとめる。</p>	a b c b b	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p> <p>発表(行動の観察) ※第3時3・4について</p> <p>感想文(記述の確認) ※第4・5時について</p>
	随筆	4 「C読む こと」	「方丈 記」	<p>【ゆく河の流れ】</p> <p>1 全文を音読し、話のあらすじを読み取る。(語句と表現1~3)</p> <p>2 「人」(一二八・3)と「栖」(一二八・3)と、「ゆく河の流れ」(一二八・1)と「淀みに浮かぶうたかた」(一二八・1)との類似点について考える。(手引き1)</p> <p>3 「無常を争ふさま」(一二九・2)とは</p>	a b c	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p> <p>発表(行動の観察) ※第4について</p>

				<p>どのようなことかを踏まえて、『方丈記』で描かれる「無常観」について考える。 (手引き2・古文の窓1)</p> <p>4世の「無常」について考え、発表する。</p>		
	寓話	3 「C読むこと」	寓話一三編	<p>【借虎威】</p> <p>1 本文を音読し、漢文特有の読み方に慣れる。</p> <p>2 本文を書き下し文にし、現代語訳する。 (手引き1)</p> <p>3 本文の漢字の用法や句法について整理する。</p> <p>4 「虎の威を借る」という故事成語について理解を深める。</p>	a b c	テスト (分析) ノート (記述の確認) ※全体
	定期テスト (1学期期末)					
7 ・ 8 ・ 9	詩歌	7 「C読むこと」	<p>こころの 鉦一短歌抄</p> <p>秋の航一 俳句抄</p> <p>「 Iwas born」</p>	<p>1 短歌とはどういうものか、どんな短歌を知っているかなどについて興味を持つ。</p> <p>2 掲載された短歌を音読し、リズムを味わい、短歌に慣れる。(手引き1)</p> <p>3 それぞれの歌について、読解・鑑賞をして話し合う。(手引き2・3)</p> <p>4 掲載された短歌の中から印象に残った一首を選んで、四百字程度の感想文を書く。(手引き4)</p> <p>1 五・七・五の定型詩・季語・切れ(切れ字)・取り合わせなど、俳句の基礎知識・概念を認識し、知っている俳句・俳人などを発表し合うことで、俳句に対して興味を持つ。</p> <p>2 掲載された俳句を音読し、リズムを味わい、俳句に慣れる。(手引き1)</p> <p>3 それぞれの句について、読解・鑑賞をして話し合う。(手引き2・3)</p> <p>4 掲載された俳句の中から印象に残った一句を選んで、四百字程度の感想文を書く。(手引き4)</p> <p>1 詩を音読して、全体を把握する。</p> <p>2 散文詩の特徴を理解し、独特な表現やリズムを味わう。(手引き1・現代文の窓1)</p> <p>3 「父」に話しかけるまでの「僕」の気持ちの流れを読み取り、まとめる。(手引</p>	a b c b b	<p>テスト (分析) ノート (記述の確認) ※全体</p> <p>感想文 (記述の確認) ※短歌4・俳句4について</p> <p>発表 (行動の観察) ※詩5について</p>

			<p>き2)</p> <p>4「父」の話の内容を理解し、そこに込められた「父」の思いと、「父」の話聞いた「僕」の思いを読み取り、まとめる。(手引き3・4)</p> <p>5題名に込められた作者の思いについて話し合う。(手引き5)</p>		
歌物語	3 「C読むこと」	「伊勢物語」	<p>【芥川】</p> <p>1全文を音読し、話の概略をノートにまとめる。</p> <p>2女の身分について理解し、男の心情の推移を読み取る。また、「白玉か…」の歌に込められた男の心情と歌の役割について考える。(手引き1・2・語句と表現1・古文学習のしるべ4)</p> <p>3作品についての感想を発表しあう。</p>	a b c b	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p> <p>発表(行動の観察) ※3について</p>
詩文	5 「C読むこと」	絶句と律詩	<p>【送元二使安西】【黄鶴楼送孟浩然之広陵】</p> <p>1それぞれの詩の詩形と押韻を確認する。(手引き3・漢文の窓4)</p> <p>2それぞれの詩を音読し、書き下す。</p> <p>3展開に注意して現代語訳し、「友情」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。(手引き1)</p> <p>4「友情」という章立てを意識しつつ、それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。(手引き2)</p> <p>【涼州詞】【春望】【香炉峰下、……】</p> <p>1それぞれの詩の詩形と押韻および対句を確認する。(手引き3・語句と表現1・漢文の窓4)</p> <p>2それぞれの詩を音読し、書き下す。</p> <p>3展開に注意して現代語訳し、「人生」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。(手引き1)</p> <p>4「人生」という章立てを意識しつつ、それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。(手引き2)</p> <p>5理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。(手引き4)</p> <p>【発展】</p> <p>孟浩然と幸田露伴の「春曉」(253ページ)を読み比べて、二つの詩の違いを論じる。(言語活動)</p>	a b c b	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p> <p>レポート(記述の確認) ※[発展]について</p>

	定期テスト (2学期中間)					
1 0 ・ 1 1 ・ 1 1 2	小説2	7 「C読む こと」	太 宰 治 「富嶽百 景」	<p><第1時></p> <p>1教科書の作者紹介などを見て、太宰治についておおよその知識を得る。</p> <p>2富士山の姿がどのように変化するかに注意して、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>3ストーリーと直接関係のない第一段を作品冒頭に置いた作者のねらいや効果について考える。</p> <p><第2時></p> <p>1第二段～第五段を読み、「私」は、周囲の人々の態度や人柄に対してどのような感じを持ったか、整理する。(手引き2)</p> <p>2周囲の人々との触れ合いを通じて、「私」がどのように影響を受け、心情を変化させていったかについて考え、まとめる。</p> <p><第3時></p> <p>1「私」の「富士」に対する気持ちの変化について考える。(手引き3)</p> <p>2本文において、「富士」がどのような役割を果たしていると思うか、話し合う。(手引き4)</p> <p>3この文章の魅力はどのようなところにあるか、また、どのようなことが主題だと思うか、話し合う。</p> <p><第4時・5時></p> <p>感想をまとめる。</p> <p><第6時・7時></p> <p>1「読書案内」〔二八八ページ〕に紹介された本から一冊選んで読み(該当冊子が無い場合は図書館で別の本を選定し作業を行う)、その本を紹介するスピーチをする。(言語活動)</p>	a b c b b	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p> <p>感想文(記述の確認) ※〈第4・5時〉について</p> <p>発表(行動の観察) ※〈第3時〉3、〈第6・7時〉について</p>
	和歌	4 「C読む こと」	「万葉集」	<p>1『万葉集』の時代区分、主な歌人、歌体などを、教科書の作品解説や便覧で確認する。</p> <p>2短歌・長歌のリズム、句切れ、強調され</p>	a b c	<p>テスト(分析)</p> <p>ノート(記述の確認) ※全体</p>

			<p>る箇所などに注意しながら範読を聞き、音読する。(手引き1)</p> <p>3それぞれの歌について、詠まれた状況や和歌の修辞を確認し、作者の心情を考えてまとめる。(手引き2・古文学習のしるべ5)</p> <p>4「不尽山を望みし歌」〔一六三・四〕の反歌〔一六三・九〕について、『小倉百人一首』に載せられた歌とどのように違うか、話し合う。(手引き3)</p>	b	<p>発表(行動の観察)</p> <p>※万葉4・[発展]について</p>
		「古今和歌集」	<p>1成立の時期、撰者、部立、頻出する修辞などを理解する。また、勅撰和歌集についても確認する。(古文の窓6・古文学習のしるべ5)</p> <p>2歌の句切れやリズムに注意しながら、範読、斉読、指名読みを織り交ぜて、歌を音読する。(手引き1)</p> <p>3五三番～三三七番の四季の歌を鑑賞し、季節の風物をどのように捉えて表現しているか、まとめる。(手引き2)</p> <p>4「羈旅歌」(四〇六番歌)、「恋歌」(四七八番歌・五五二番歌)、「雑歌」(九三三番歌・九五六番歌)を鑑賞し、それぞれどのような心情が詠まれているか、まとめる。(手引き3)</p>		
		「新古今和歌集」	<p>1『新古今和歌集』の歌の概要と特徴について知る。また、成立した時代の政治状況を認識する。</p> <p>2句切れやリズムに注意しながら音読する。(手引き1)</p> <p>3それぞれの歌を鑑賞し、詠まれた情景や心情を読み取り、まとめる。(手引き2・古文学習のしるべ5)</p> <p>4宮内卿の歌〔一七〇・6〕と藤原家隆の歌〔一七二・1〕をそれぞれの本歌と比較し、共通点と相違点をまとめる。(手引き3・古文学習のしるべ5)</p> <p>5後に「三夕の歌」と呼ばれるようになる「秋歌上」の三六一番歌～三六三番歌を詠み比べ、気づいたことをまとめる。(手引き4)</p> <p>[発展]</p> <p>『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の歌の傾向の違いについて考え、話し合</p>		

			う。(言語活動)		
	史話	5 「C読む こと」	史話一三 編 【晏子之御】 1教科書の注釈や「中国文学史年表」など を利用し、『史記』の成立時期や著者、 紀伝体について理解する。世界史の教科 書等も積極的に活用する。 2本文を音読する。 3脚注・辞書等を参照しながら句法に注意 して正確に現代語訳する。(手引き1・ 語句と表現1) 3御者の妻が晏子と御者(夫)をどのよう に比較しているかを読み取る。(手引き 2) 4御者が「抑損」した理由を考える。 5晏子が御者を推薦して「大夫」にした理 由を話し合う。(手引き3) 6「晏子」,「御者」,「妻」の人的魅 力について考え,討論する。(言語活動)	a b c b	テスト(分析) ノート(記述の確 認) ※全体 発表(行動の観察) ※5・6について
	定期テスト (2学期期末)				
1 2 ・ 1 ・ 2 ・ 3	作品を読み比べ る	5 「B書く こと」	桜に関する 作品を 読み比べ る 1桜についての詩歌や文章を通読する。 2[A]の古典和歌において桜がどのよう に詠まれているか考える。(言語活動①) 3[B][C]について,形式の違いにも 注意しながら,近現代の詩歌において桜 に託された作者の思いを比較する。(言 語活動②) 4[D]の随筆において,桜を巡る筆者の 考えがどのように変化しているか,まと める。(言語活動③) 5[A]から[D]で描かれた桜を比較し, 読み比べを通して気づいたことを,八百 字程度の文章にまとめる。(言語活動④)	a b c b	テスト(分析) ノート(記述の確 認) ※全体 レポート(記述の確 認) ※5について
	作り物語と軍記 物語	4 「C読む こと」	「平家物 語」 【木曾の最期】 1全文を通読して話の大筋をつかむ。(手 引き1・語句と表現1) 2名のりや装束描写をはじめとする軍記 物語に特有の優れた描写を指摘し,その 効果について考える。(語句と表現2) 3義仲と巴の心情の動きと通じ合いを読 み取る。(手引き2)	a b c b	テスト(分析) ノート(記述の確 認) ※全体 発表(行動の観察) ※8について

			<p>4 第三段の義仲と兼平との会話や、二人の関係性に注意しながら、義仲に自害を勧める兼平の心情と、義仲の言動と心情とを読み取る。(手引き3)</p> <p>5 第四段の兼平の奮戦を、描写に着目して読み取る。</p> <p>6 「さばかり日本国に……」〔二〇〇・1〕と、「この日ごろ……」〔二〇一・13〕で類似した表現が繰り返されることの効果について考える。(手引き4)</p> <p>7 義仲と兼平の心情に触れながら、二人の死の描かれ方についてまとめる。(手引き5)</p> <p>8 感想を話し合う。</p>		
思想	5 「C読むこと」	「論語」	<p>1 教科書の注釈や「中国文学史年表」などを参考にして、『論語』の成立と伝播、孔子の生きた時代背景、孔子の略歴を、ノートにまとめる。</p> <p>【学問を語る】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。(語句と表現1)</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子の学問観について考える。(手引き1)</p> <p>【人生を語る】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。(語句と表現1)</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子や弟子の人間観について考え、「忠」「信」、「巧言令色」や「仁」についても調べる。(手引き2・語句と表現2)</p> <p>【政治を語る】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。(語句と表現1)</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子の理想とする政治について考える。(手引き3)</p> <p>【中国と日本『論語』の注釈を読む】</p> <p>1 『論語』の解釈や注釈について、概略を理解する。</p> <p>2 「親孝行とは何か」という問いかけに対する孔子の発言について、二つの方向性</p>	a b c b	<p>テスト (分析)</p> <p>ノート (記述の確認) ※全体</p> <p>発表 (行動の観察) ※ [中国と日本…] 3・4について</p>

				<p>の解釈があることを理解し、朱熹と伊藤仁斎の解説を読み比べる。(問1)</p> <p>3 朱熹と伊藤仁斎の説のどちらに賛同するか考え、理由も示しつつ、グループで話し合う。(問2)</p> <p>4 『論語集注』を『論語古義』を読み、日本で一般的に考えられている「親孝行」と比較し、気づいたことをグループで話し合う。(問3)</p>		
	定期テスト (3学期学年末)					

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 0 時間	B 「書くこと」 5 時間	C 「読むこと」 現代文 25 時間 古典 40 時間
-----------------	-----------------------	------------------	-----------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・単元の内容に関する小テストや古文の暗唱テスト等を定期的に行います。
- ・長期休業中の課題については別途指示します。
- ・単元によってはレポート等の提出課題があります。

7 担当者からの一言

言葉は他者と関わる上で必須のツールですが、その成り立ちを考えると決して単純なものではありません。「言語文化」の授業では「国語に関する基礎的な知識」を身につけ、「論理的に考える力」、「共感したり豊かに創造したりする力」を伸ばしつつ、その土台となる「言語文化に対する理解を深めること」にもこだわりながら毎時間の授業を行います。週 2 時間という短い時間の中ですが、現代の日本語で書かれた文章や古文、漢文等、様々な文章に触れることを通して、総合的な国語力の向上を目指します。

(担当：下村 浩子)

教科(科目)	地理(地理総合)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店) 『新詳高等地図』(帝国書院)				
副教材等	『新編フォトグラフィア 地理図説 2023』(とうほう) 『地理総合ワークブック』(二宮書店)				

1 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ① 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解します。
- ② 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係や空間的相互依存作用に着目して、多面的・多角的に考察する力を身につけます。
- ③ 上記①②をふまえ、地理的な見方・考え方を身につけ、グローバル化する国際社会に生きるための能力の育成や、世界の多文化を尊重する重要性の理解を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・小テストの分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 ・授業における発言、取り組みの様子などの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 ・授業における発言、取り組みの様子などの観察 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	球面上の世界	6	<ul style="list-style-type: none"> ・位置の基準 ・時間の基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度・経度の基本的な仕組み、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、時差計算の技能を身につける。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
	日本の位置と領域		<ul style="list-style-type: none"> ・視点を変えてみた日本の位置 ・国家とその領域 ・海に広がる日本の領域 ・日本の領域に関する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界亭な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間や海洋資源の利用について考える。 		
5	国内や国家間の結びつき	9	<ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結びつき ・交通・通信による結びつき ・貿易・物流による結びつき ・観光による結びつき 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフの作り方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
	暮らしのなかの地図とGIS		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの地図を集める ・地理院地図の活用 ・GISの仕組みと役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・紙地図と電子地図としてのGISを理解し、地理院地図や地形図を通して活用方法を認識する。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 		
6	地形と生活文化	6	<ul style="list-style-type: none"> ・変動帯とプレート ・河川がつくる地形と生活 ・海岸の地形と生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯では山岳地域や高原が形成され、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について理解する。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
	気候と生活文化		<ul style="list-style-type: none"> ・大気と循環 ・気候の地域性 ・ケッペンの気候区分 ・熱帯の自然環境と生活 ・乾燥帯の自然環境と生活 ・温帯の自然環境と生活 ・亜寒帯・寒帯の自然環境と生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などに多様な影響を与えていることを理解する。 ・熱帯から寒帯までの各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもち、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨量図から考える 		
7	産業と生活文化	5	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の発展と生活文化 ・工業の発展と生活文化 ・サービス業の発展と生活文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、各産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのように関わるのか、またどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
	宗教・言語と生活文化		<ul style="list-style-type: none"> ・宗教の分布と生活文化 ・言語の分布と生活文化 ・移民と難民 ・生活文化の多様性 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを資料を通じて理解するとともに、分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。 		

9	<p>経済発展と生活文化の変化～東アジア</p> <p>宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国</p> <p>水の恵みと生活文化～南アジア</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・経済発展を支える自然・農業と生活文化 ・市場経済化と生活文化の変化～中国 ・輸出による発展と生活文化の変化～韓国 ・経済発展による変化と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・多民族社会とASEANの統合 ・宗教にねざした生活文化と産業 ・多様な宗教・言語と経済統合による課題 <ul style="list-style-type: none"> ・河川による恵みと生活文化 ・水の恵みによる発展と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済システムの変化に焦点を当て、中国と韓国を例に資料を通じて理解する。 ・とくに世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、その結果として起きている様々な問題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化の特色を資料を通じて理解する。 ・特に仏教、イスラム教、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを資料を通じて理解する。 ・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える。 	a b c	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>ワークブック</p> <p>レポート課題</p> <p>授業の取組み</p>
10	<p>イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏</p> <p>多様な気候と生活文化～アフリカ</p> <p>経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥地域とイスラームの社会 ・経済発展とイスラーム社会の変化 ・イスラーム圏の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な自然環境と生活文化 ・経済成長と自然環境の変化による課題 <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の礎となった自然環境と農業 ・産業・交通の発達による一体化 ・統合を進める背景と言語・宗教の多様性 ・経済統合と政治統合の進展と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームに焦点を当て、気候条件、宗派の違い、聖地メッカからの距離、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 ・ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を資料をもとに考える。 ・パレスチナやエルサレムの問題、少数民族の問題を、民族・言語の分布から理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と生活文化の対応、その多様性に焦点を当て、資源開発などを背景とした近年の経済成長について資料を通じて理解する。 ・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を、自然環境と生活文化の関わりから考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語、宗教の分布などを関連させながら、資料を通じて理解する。 ・地域統合の長所とともに、イギリスのEU離脱や各加盟国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。 ・地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 		

	1 1	<p>寒冷な気候と生活文化～ロシア</p> <p>グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ</p> <p>土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ</p>	9	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷な気候と生活・産業 ・寒冷地域の開発による成長と課題 ・経済発展の基盤となった社会の多様性 ・大規模な農業とグローバルな食文化 ・グローバル化による変化と課題 ・開発による農牧業の発展と生活文化 ・開発による発展と社会にみられる課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を、資料を通じて理解する。 ・豊富な鉱産資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。 ・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 ・企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 ・アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。 ・開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人々が生活している理由や、産業に多様性がみられる理由について、資料をもとに、多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。 ・鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みについて考える。 	<p>a 定期考査</p> <p>b 小テスト</p> <p>c ワークブック レポート課題 授業の取組み</p>
	1 2	<p>植民と移民による生活文化の形成～オセアニア</p> <p>地球環境問題</p> <p>資源・エネルギー問題</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・植民による開発と生活文化 ・移民と多文化社会にみられる課題 ・環境問題と持続可能な社会 ・国境を越える汚染 ・森林減少・砂漠化とその対策 ・気候変動とその対策 ・鉱物資源・エネルギー資源とその課題 ・資源のリサイクル・再生可能エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。 ・オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。 ・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていく必要があること、自らが関わる問題であることをSDGsをふまえて認識する。 ・深刻な地球環境問題となっている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について、事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取組について考える。 ・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら、資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、解決のための取組をSDGsと関連づけて考える。 	
	1	<p>人口・食糧問題</p> <p>居住・都市問題</p> <p>日本の自然災害と防災</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・人口と人口問題 ・世界各地の人口問題 ・二つの食糧問題 ・食糧問題の背景と解決策～サブサハラ ・発達する都市 ・都市への人口集中にともなう問題 ・居住・都市問題と都市計画 ・世界からみた日本の地形の特色 ・世界からみた日本の気候の特色 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から、人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。 ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、グローバル、ローカルのそれぞれの異なる視点からSDGsと関連づけ対応策を構想する。 ・都市に人口が集まる現象を主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中にともなう問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけて解決策を考える。 ・日本列島の地形と気候の特徴を、資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 	<p>a 定期考査</p> <p>b 小テスト</p> <p>c ワークブック レポート課題 授業の取組み</p>

2 ・ 3	日本の自然災害と防災		<ul style="list-style-type: none"> ・風水害と防災 ・火山の噴火と防災 ・地震・津波と防災 ・防災への心構え～自助・共助・公助～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するために、風水害をはじめとする災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、防災・減災意識の向上につなげる。 		
	生活圏の諸課題と地域調査	5	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図からみた日本の特徴と課題 ・地域調査① 事例地域の選定～事前調査 ・地域調査② 現地調査～調査地図の作成 ・地域調査③ 他地域との比較～まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、少子高齢化、過疎化について、景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。 		

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・学期ごとにワークブックの提出をしてもらいます。
- ・動画の視聴やグループワークなどを実施した際には、簡単なレポート課題を提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

私たちが暮らす社会は、交通手段や情報通信技術が著しく発展し、人やもの、情報が国境を越えて移動することで生活は成り立っています。そして、ニュースでは毎日のように国際情勢が扱われ、その背景には人口問題や貧富の格差、地球規模の環境問題などの課題が存在しています。

世界が平和に保たれ、人々が豊かに暮らすには何が必要となるのでしょうか。その第一歩は世界について「知る」ことではないでしょうか。地理総合の授業を通じて、世界の多様な自然環境や生活文化を学ぶことは、グローバル化がさらに進む未来を生きる皆さんにとって、大きな助けとなると確信しています。一緒に頑張っていきましょう。

(担当：眞島 智宣)

教科(科目)	歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	実教出版 『歴史総合』				
副教材等	第一学習社 ダイアログ歴史総合 実教出版 歴史総合演習ノート				

1 学習目標

近現代史における「世界との中の日本」を広く相互的な視野から捉え、歴史を理解するための知識、歴史に関する様々な情報を適切に調べてまとめる技能、歴史事象の意味や特色について多面的・多角的に思考、考察する力とともに、それらを使って主体的に課題を解決しようとする資質・能力を身につける。

2 指導の重点

- 本校生徒の希望進路が進学・就職等多岐にわたっていることから、
- ① 中学校までの既習事項を確認しながら、世界の諸地域と生活文化に関する知識と理解を深め、空間的な広がりや自己との関係性を意識させる。
 - ② 用語を的確に理解し、それをを用いた記述や表現ができることをめざす。
 - ③ 世界の諸地域における歴史の展開を、ヒトやモノ、文化の相互交流の視点から読み解くことで、歴史的な考察力を養うことをめざす。
 - ④ 現代の世界にみられる諸問題を歴史的な背景、特に近現代の歴史をふまえて考察できるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目できる。また、ものごとを多角的、多面的に考察したりできるような力をもっている。また、考察した結果を表現したり、それらをもとに議論したりする力を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身につけている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	日本及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、日本及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する国民としての責務を果たそうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テストの分析 ・準拠ノートの提出 ・レポートやワークシートの提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト(資料読解・論述問題)の分析 ・準拠ノートの提出 ・ワークシートの提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・討論や発表の取り組み状況の分析 ・ワークシートの提出 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動	評価の観点	評価方法
4	歴史の扉 (1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料	2	・ダンスからみるいまと昔 ・「装い」は何を語るのか	高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能を身につけさせる	a c	演習ノート提出 ワークシート

5	近代化と私たち (1) 近代化への胎動	4	1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 3 幕政の改革と東アジア世界	歴史の扉の学習を踏まえ、諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活やありかたが近代化にともない変化したことについて考察する。	a b c	演習ノート提出 ワークシート
	(2) 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	2	4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5 フランス革命とウィーン体制	18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における産業と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などをもとに、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。	a b c	演習ノート提出 ワークシート
		4	6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7 オスマン帝国の衰退とロシア 8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9 江戸幕府の滅亡		a b c	定期考査 授業ノート提出
	(3) 欧米諸国と日本の国民国家形成	8	10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一	19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係をもとに、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する		演習ノート提出 ワークシート
6			11 明治維新の諸改革 12 日本のアジア外交と国境問題 13 自由民権運動と大日本帝国憲法			
	(4) 帝国主義の時代	6	14 帝国主義の時代へ 15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16 日清戦争後の東アジア	19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。	a b c	演習ノート提出 ワークシート
7			17 日露戦争と東アジアの変動 18 日本の産業革命		a b c	定期考査 授業ノート提出
	国際秩序の変化や大衆化と私たち (5) 第一次世界大戦と大衆社会	4	19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー	中学の学習並びにこれまでの学習をふまえ、諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を取得し、私たちの生活や社会のあり方が国際秩序の変化や大衆化にともない変化したことについて考察する。	a b c	演習ノート提出 ワークシート
8		2	22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制			

9		8	23 アジアの民族運動 24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 26 世界恐慌と各国の対応 27 ファシズムの時代			
10	(6) 経済危機と第二次大戦	8	28 世界恐慌と各国の対応 29 ファシズムの時代 28 満州事変と軍部の台頭 29 日中戦争と戦時体制	世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協力体制の動揺を理解する。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	a b c	定期考査 授業ノート提出 演習ノート提出 ワークシート
11		9	30 第二次世界大戦の勃発 31 第二次世界大戦の終結 32 国際連合の成立と冷戦 33 日本占領と日本国憲法 34 朝鮮戦争と日本			
12	グローバル化と私たち (7) 冷戦と脱植民地化	3 1	35 植民地の独立 36 ミソソ連軍の動揺 37 日本の国際社会復帰と高度経済成長 沖縄からみたベトナム戦争	脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	a b c	定期考査 授業ノート提出 演習ノート提出 ワークシート 課題提出
1	(8) 多極化する世界	4	38 石油危機と世界経済 39 緊張緩和から冷戦の終息へ 40 日本の経済大国化	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	a b c	
2	(9) グローバル化と現代社会	1 2	多国籍企業について考える 41 地域紛争と対立 42 国際秩序の変容	事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本と世界の国や地域の動向を比較して、各主題について多角的、多面的に考察し、構想し、表現する。	b c	定期考査 授業ノート提出 演習ノート提出 ワークシート
3		2	持続可能な社会をめざして		b c	演習ノート 課題提出

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに授業ノートの提出があります。
- ・定期考査に合わせて、副教材の課題提出や単元ごとの小テストを実施します。

7 担当者からの一言

・「歴史総合」は、国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的つながりを学びます。この過程は、「他者」の発見と「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもあります。このとき、「問い」をたてるという姿勢が大切です。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢です。このことが「歴史総合」を学ぶという意味になっています。

授業では板書事項をノートに記入するとともに、補足事項や気づいたことを書き留めるなどして、ノートを活用できるようにしましょう。また、図説や教科書に出てくる地図や写真をよく参照して、理解を深めるようにしましょう。

単元ごとの整理や考査前の復習プリントなどで知識の定着をはかりながら、学習した内容が確実に身につくようにしましょう。

(担当：國島 聡)

教科(科目)	数学(数学I)	単位数	3単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	数研出版 『新編 数学I』				
副教材等	数研出版『新課程 REPEAT 数学I+A』、数研出版『新課程 Study-Up ノート数学I+A』、				

1 学習目標

- ・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、事象を数学的に解釈、表現する技能を身に付けるようにする。
- ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を用いて分析し問題を解決したり、結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度の基礎を養う。

2 指導の重点

多様な進路希望に対応できる学力の育成を目指して

- ① 乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにします。
- ② 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数の値の変化についてグラフを用いて考察できるようにします。
- ③ 三角比の意味やその基本的な性質を理解し、事象の考察に活用できることを目指します。
- ④ 統計の基本的な考えを理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにします。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しようとするとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力をつける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につける。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【 40 % 】	思考・判断・表現 b 【 40 % 】	主体的に学習に取り組む態度 c 【 20 % 】
評価の観点	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しようとするとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力をつける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につける。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・課題など提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言や発表への取組の観察 ・課題など提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表への取組の観察 ・課題など提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	第1章 数と式	2 3 4	第1節 式の計算	1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 ※式を, 目的に応じて1つの文字に 着目して整理したり, 1つの文字に おき換えたりするなどして既に学 習した計算の方法と関連付けて, 多 面的に捉えたり, 目的に応じて適切 に変形したりする力を培う。	a, b, c a, b, c a, b, c	・授業中の発言や発 表への取組の観察 ・課題など提出物の 内容の確認
5		2 3	第2節 実数	4. 実数 5. 根号を含む式の計算 ※中学校までに取り扱ってきた数 を実数としてまとめ, 数の体系につ いての理解を深める。その際, 実数 が四則演算に関して閉じているこ とや, 直線上の点と1対1に対応し ていることなどについて理解する とともに, 簡単な無理数の四則計算 ができるようにする。	a, b, c a, b, c	
		1		1学期中間考査	a, b, c	・ペーパーテストの 分析 ・提出物の内容の確認
		2 4	第3節 1次不等 式	6. 不等式の性質 7. 1次不等式 ※不等式の解の意味や不等式の性 質について理解するとともに, 不等 式の性質を基に1次不等式を解く 方法を考察したり, 具体的な事象に 関連した課題の解決に1次不等式 を活用したりする力を培う。	a, b, c a, b, c	・授業中の発言や発 表への取組の観察 ・課題など提出物の 内容の確認
6	第3章 2次関数	2 2 7	第1節 2次関数 とグラフ	8. 絶対値を含む方程式・不等式 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ ※2次関数の値の変化やグラフの特 徴を理解するとともに, 2次関数の 式とグラフとの関係について, コン ピュータなどの情報機器を用いて グラフをかくなどして多面的に考 察する。	a, b, c a, b, c a, b, c	
		1		1学期期末考査	a, b, c	・ペーパーテストの 分析 ・提出物の内容の確認

7		5 4	第2節 2次関数の値の変化	3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 ※2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	a, b, c a, b, c	・授業中の発言や発表への取組の観察 ・課題など提出物の内容の確認
	8 9	3 4 7	第3節 2次方程式と2次不等式	5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式 ※2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	a, b, c a, b, c a, b, c	
10		1		2学期中間考査	a, b, c	・ペーパーテストの分析 ・提出物の内容の確認
	第2章 集合と命題	3 3 3		1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏	a, b, c a, b, c a, b, c	・授業中の発言や発表への取組の観察 ・課題など提出物の内容の確認
11	第5章 データの分析	4		4. 命題と証明 ※集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	a, b, c	
		1		1. データの整理	a, b, c	
		1		2. データの代表値	a, b, c	
		2		3. データの散らばりと四分位数	a, b, c	
12		1		2学期末考査	a, b, c	・ペーパーテストの分析 ・提出物の内容の確認
		2 2		5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方 ※データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う	a, b, c a, b, c	・授業中の発言や発表への取組の観察 ・課題など提出物の内容の確認

1	第4章 図形と計量	3	第1節 三角比	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 ※ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	a, b, c a, b, c a, b, c	
		2	第2節 三角形への応用	4. 正弦定理 5. 余弦定理	a, b, c a, b, c	
		2 2 3		6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 ※図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う	a, b, c a, b, c a, b, c	
2		2		課題学習	a, b, c	・授業中の発言や発表への取組の観察
		2				
3		1		学年末考査	a, b, c	・ペーパーテストの分析 ・提出物の内容の確認

計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・毎週、週末課題を課します。課題は週明けに提出してもらいます。
- ・考査ごとに、問題演習帳を利用した問題演習を課します。問題演習帳は考査後に提出してもらいます。
- ・長期休業には課題を課します。課題は休業明けに提出してもらうとともに課題考査を実施し、その結果は成績に加味します。

7 担当者からの一言

高校数学は、学習する内容が多くあります。受け身ではなく自分で考える習慣をつけましょう。授業中の疑問はそのままにせず、すぐ質問して理解するようにしましょう。そして学習したその日のうちに復習することが大切です。特に数学 I と数学 A は、2 年次以降の数学の学習の基礎となる内容なので、しっかり取り組みましょう。
(担当：加藤 芳宏)

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	第一学習社 『高等学校 物理基礎』				
副教材等	第一学習社 『セミナー物理基礎』				

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・観察や実験の場面を想定して、それを科学的に考察し判断する力に課題が見られることから
 - ①用語や公式をただ記憶するだけでなく、その意味を正確に理解する力の育成を目指します。
 - ②理由を考察したり、文章で表現したり、活用する力の育成を目指します。
 - ③身近な現象と関連付けて、理科の原理や法則の活用例を交えて、理科の有用性を実感させることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて 関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて 関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	第I章 運動とエネルギー	7 a 知識 技能	① 速度	・物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解する。	b c	提出物 実験レポート
5	第1節 物体の運動	8	②加速度 ③落下運動	・物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。	b c	提出物 実験レポート 定期考査
6	第2節 力と運動の法則	8 a 知識 技能	①さまざまな力 ②力の合成 ・分解とつりあい	・物体に様々な力が働くことを理解する。 ・物体に働く力のつり合いを理解する。	b c	提出物 実験レポート
7		6 a 知識 技能	① 運動の3法則 ② 運動方程式の利用 ③ 抵抗力を受ける運動	・運動の三法則を理解する。 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動の関係について理解する。	b c a	提出物 実験レポート 定期テスト
9	第3節 仕事と力学的エネルギー	8 a 知識 技能	① 仕事と仕事率 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギー	・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。	b c	提出物 実験レポート
10 11	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー	8 a 知識 技能	① 熱と温度 ② エネルギーの変換と保存 ③ 気体の圧力と熱運動	・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。	b c a	提出物 実験レポート 定期テスト
	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	8 a 知識 技能	①波の表し方と波の要素 ②波の重ね合わせ ③波の干渉・反射・屈折 ④音波の性質 ⑤物体の振動	・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する。 ・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。	b c	提出物 実験レポート

12		3 a 知識 技能	⑥ドップラ ー効果		b c a	提出物 実験ポ ート 定期テスト
1	第IV章 電気 第1節 静電気と電流	6 a 知識 技能	①静電気 ②電流と抵 抗 ③電気エネ ルギー	・物質によって抵抗率が異なる ことを理解する。	b c	提出物 実験ポ ート
2	第2節 電流と磁場	6 a 知識 技能	①磁場 ② モーター と発電機 ③交流と電 磁波	・交流の発生、送電及び利用に ついて、基本的な仕組みを理 解する。	b c a	提出物 実験ポ ート 定期テスト
3	第3節 エネルギーと その利用	2 a 知識 技能	①太陽エネ ルギーと化 石燃料 ②原子力エ ネルギー	・人類が利用可能な水力、化石燃 料、原子力、太陽光などを源とす るエネルギーの特性や 利用な どについて、物理学的な視点か ら理解する。	b c	提出物

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各単元の最後に、確実な定着を図るとともに、自己を振り返るための演習を行います。
- ・適宜課題を課します。
- ・長期休業中の課題は、別途指示します。

7 担当者からの一言

目先の定期試験のために法則や公式を丸暗記しても、しばらく使っていなければ忘れてしまいます。公式の導出方法が大事な物理のものの方・考え方に繋がります。日常生活や社会との関連をイメージしながらの学習を心がけてください。

(担当：羽鳥 晃)

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	生基703 「生物基礎」 実教出版				
副教材等	「高校生物基礎エブリノート授業のまとめ」 実教出版 「セミナー生物基礎」 第一学習社				

1 学習目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 指導の重点

- ①生物の多様性を踏まえ、生物に共通する概念や原理・原則を理解する。
- ②遺伝子・健康・環境など日常生活や社会とのかかわりを考えるのに必要な科学的素養を高める。
- ③観察、実験を通して生物や生命現象に対する畏敬の念を育む。
- ④多様性と共通性という2つの視点から、生物や生命現象を探究する方法や姿勢を身につける。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けるようにしている。観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けるようにしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けるようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性 と共通性	8	教科書及び 副教材 以下同じ オオカナダモ 検鏡セット	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。 ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 	a・b ・c	提出物 小テスト 実験レポート
5	2節 細胞とエネルギー	8	カタラーゼ 実験道具	<ul style="list-style-type: none"> ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 	a・b ・c	提出物 小テスト 実験レポート 定期考査
6	第2章 遺伝子とそ のはたらき 1節 遺伝情報と DNA	8		<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。 ・DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解させる。 	a・b ・c	提出物 小テスト

7	2節 遺伝情報とタンパク質の合成	6		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質が DNA の遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNA からタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> a・b ・c 	<p>提出物</p> <p>小テスト</p> <p>定期考査</p>
9	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境	8		<ul style="list-style-type: none"> ・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> a・b ・c 	<p>提出物</p> <p>小テスト</p>
10	2節 体内環境維持の仕組み	8		<ul style="list-style-type: none"> ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。 ・ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。 ・血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> a・b ・c 	<p>提出物</p> <p>小テスト</p> <p>定期考査</p>
11	3節 免疫	8		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> a・b ・c 	<p>提出物</p> <p>小テスト</p>

1 2	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生とその成り立ち	6		<ul style="list-style-type: none"> ・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解させる。 ・植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。 ・環境形成作用により土壌が形成されることを理解させる。 ・植生内の光環境の変化や土壌の発達によって遷移が進行することを理解させる。 	a・b ・c	提出物 小テスト 定期考査
1	2節 植生とバイオーム	4		<ul style="list-style-type: none"> ・気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 ・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 ・バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適応していることを理解させる。 ・日本のバイオームについても、その構成種とともに理解させる。 	a・b ・c	提出物 小テスト
2・3	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	6		<ul style="list-style-type: none"> ・生態系における生物の種多様性について理解させる。 ・生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解させる。 ・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させる。 ・生態系の保全の重要性について認識させる。 ・自然環境の保全に寄与する態度を育てる。 	a・b ・c	提出物 小テスト 定期考査

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・実験を行った場合にレポートを提出する。
- ・単元ごとにワークシートや振り返りシート等を提出する

7 担当者からの一言

1学年のみなさんへ

授業に真摯に取り組み、単元ごとの問題演習プリントをきちんと解き、自宅で復習をしてください。
理解した科学的内容は、日常生活や社会生活の理解のために活用してください。科学的理解は生活や社会をより良く活用するためにあるものです。最新の科学トピックスについても、生物基礎の知識を活用し、自らがデータを集め、正しい判断をできる力が育まれるよう期待しています。

(担当：田中恵)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店 『現代高校保健体育ノート』				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 指導の重点

高等学校1年次の体育は、小学校、中学校及び高等学校12年間の一貫性を踏まえ、特に中学校第3学年との接続を重視することから、

- ①運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付ける力を育てる。
- ②合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうことを目指す。
- ③生涯にわたって運動を豊かに継続するための資質・能力を養う。
- ④公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を養い、スポーツの文化的価値に対する理解を深める。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせを工夫しているとともに、それらを他者に伝え、共有し協働している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【60%】	思考・判断・表現 b 【20%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせを工夫しているとともに、それらを他者に伝え、共有し協働している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験における技術レベルや記録の分析 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験における技術レベルや記録の分析 ・授業中の取り組み、活動の様子 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加と授業中の取り組み、活動の様子 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 ・ 5	オリエンテー ション	1		<ul style="list-style-type: none"> ・体育を学習する意味を理解し、学習に対する意欲を高める ・授業における注意事項等を確認する 		
	体づくり運動	1 2	体ほぐしの運動 ラジオ体操 体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動やさまざまな運動を通して、規律ある行動のとり方や運動の楽しさを理解するとともに、体力の向上を図る ・仲間の身体や心の状態に気づき、仲間との交流を深める ・ラジオ体操第一を正しく行い、しっかりとした動きを身につける ・体力テストを行い、自らの体力を知り、運動技能の向上や体力の保持増進に努める 	a b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認)
6 ・ 7 ・ 8 ・ 9	陸上競技 球技 器械運動 ダンス	2 3	<晴天時> 長距離走 ハードル走 ソフトボール <雨天時> マット運動 ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走における技術と体力について理解し、自己の限界に挑戦することを通して、走りきることによる達成感や記録の向上による喜びを味わう ・基本動作を学び習得することを通して、記録を向上させたり競走したりすることの楽しさや喜びを味わう ・投球、捕球、打撃などの基本的な技術を身につけ、キャッチボールをしたり集団でゲームを展開したりする楽しさや喜びを味わう ・自己に適した技で演技するとともに、技の習得による楽しさや喜びを味わう ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する ・イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする 	a b c	活動の様子 (行動の観察) 計測・実技テスト (技術の確認) 学習カード・記録用紙 (記述の点検)

10 ・ 11 ・ 12	陸上競技 球技 武道	18	<p><晴天時> ハードル走</p> <p>テニス</p> <p><雨天時> 柔道</p> <p>バレーボール</p>	<p>・基本動作を学び習得することを通して、記録を向上させたり競走したりすることの楽しさや喜びを味わう</p> <p>・ストローク、ボレー、サーブなどの基本的な技術を身につけ、ラリーをしたりゲームで勝敗を競ったりする楽しさや喜びを味わう</p> <p>・安全に留意し、基本動作や基本となる技を習得する楽しさや喜びを味わう</p> <p>・武道の特性である伝統的な考え方や礼儀作法について理解を深め、正しい動作が行えるようにする</p> <p>・パス、スパイク、サーブなどの基本的な技術を身につけ、仲間とともに練習したりゲームで勝敗を競ったりする楽しさや喜びを味わう</p>	a b c	活動の様子 (行動の観察) 計測・実技テスト (技術の確認) 学習カード (記述の点検)
1 ・ 2	球技	10	<p>バドミントン 卓球</p> <p>バスケットボール</p>	<p>・いろいろな打ち方を習得し、基本的な技術を用いて攻防を展開したりゲームで勝敗を競ったりする楽しさや喜びを味わう</p> <p>・シュート、ドリブル、パス、などの基本的な技術を身につけ、仲間とともに練習したりゲームで勝敗を競ったりする楽しさや喜びを味わう</p>	a b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認)
2 ・ 3	体育理論 体育編1単元 スポーツの発 祥と発展	6	現代高等保健体 育(体育編)	<p>・スポーツの意義や歴史、文化的特徴や現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について学ぶ</p> <p>1) スポーツの始まりと変遷</p> <p>2) 文化としてのスポーツ</p> <p>3) オリンピックとパラリンピックの意義</p> <p>4) スポーツが経済に及ぼす効果</p> <p>5) スポーツの高潔さとドーピング</p> <p>6) スポーツと環境</p>	a b c	レポート作成 (記述の点検)

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

- ・各種目の最後に記録の計測や実技テストを行う。
- ・怪我等で見学をする場合は、前もって担当者に申し出て、授業後に見学用紙を提出する。
- ・体育理論では課題レポートを作成し、毎時間授業後に提出する。

7 担当者からの一言

高校入学年次の体育授業では、3年間を見通して、体育的な行動様式や体操、補強運動など基本的な運動を身につけることを重点とし、継続性、反復性を重視して体力の向上に取り組みます。また、各単元におけるスポーツ種目では、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたるスポーツ実践につなげることを目指します。新しく出会った仲間と協力協働しながら、主体的で活発な授業となるよう取り組んでください。(担当：菅 耕二郎)

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店 『現代高校保健体育ノート』 『図説現代高等保健』				

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

小学校・中学校の内容を踏まえた系統的な学習であり、入学年次であることから、

- 授業の進め方や内容について理解し、基本的な学習のスタイルを身に付ける事を目指す。
- 現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深め、自他や社会の課題を発見する事を目指す。
- 課題の解決に向けて思考し判断する力を身につけることを目指す。
- 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、明るく豊かで活力ある生活に生かされるものとして身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、状況に応じて他者と共有し協働している。	・積極的な態度で授業に参加し、主体的に学習に取り組んでいる。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、自身の生活に生かされるものとして身に付けようとしている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、状況に応じて他者と共有し協働しようとしている。	・積極的な態度で授業に参加し、主体的に学習に取り組もうとしている。
評価方法	・定期テストの分析 ・学習ノートやレポート、ワークシート等、提出物などの内容の確認	・定期テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・学習ノートや、レポート、ワークシート等、提出物の内容の確認	・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・学習ノートや、レポート、ワークシート等、提出物の内容の確認

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	1 単元 現代社会 と健康	3	1. 健康の考え方 と成り立ち 2. 私たちの健康 のすがた	1) 健康についての多様な考え方 2) 健康の成り立ちとその要因 1) わが国における健康水準の向上 2) わが国における健康問題の変化 ①健康のとらえ方の歴史を振り返って みよう ②生きることと病気について考えて みよう	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
6		5	3. 生活習慣病の 予防と回復 4. がんの原因と 予防 5. がんの治療と 回復	1) 生活習慣病とその種類 2) 予防から回復まで 1) がんとその種類 2) がんの予防 1) がんの治療と緩和ケア 2) がんとともに生きる社会づくり ③がんの克服を目指して～がん治療 最前線～ ④がんとともに生きる人々を支える 取り組み	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
7		3	6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と 健康	1) 健康からみた運動の意義 2) 健康により運動のしかた 1) 健康的な食生活の意義 2) 健康により食事のとり方 1) 健康からみた休養の意義 2) 健康からみた睡眠の意義 ⑤自分の身体活動量を調べてみよう ⑥BMI から自分の肥満度を調べてみ よう	b c a b	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察) 定期考査 学習ノート・ 授業プリント (記述の点検)
8 ・ 9	定期テスト	5	9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と 健康	1) 喫煙の影響 2) 喫煙への対策 1) 飲酒の影響 2) 飲酒への対策 1) 薬物乱用の影響 2) 薬物乱用の要因と対策 ⑦酒の広告について考えてみよう ⑧薬物乱用の誘いに対処してみよう	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
10		5	12. 精神疾患の 特徴 13. 精神疾患の 予防 14. 精神疾患か らの回復	1) 精神疾患の要因と種類 2) 精神保健の今日的課題 1) 日常生活における精神疾患の予防 2) 精神疾患の早期発見・早期治療 1) 専門家による支援と治療 2) 社会環境の整備 ⑨ストレスや不安に対処しよう ⑩うつ病からの回復をたどってみよう	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)

11	12	5	15. 現代の感染症	1)感染症とは 2)さまざまな感染症	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
			16. 感染症の予防	1)感染症予防の3原則 2)現代の感染症対策		
1	1	3	17. 性感染症・エイズとその予防	1)性感染症・エイズとは 2)性感染症・エイズの予防 ⑪新たなインフルエンザを警戒しよう ⑫新たな脅威～薬剤耐性菌～	a b	定期テスト 学習ノート・ 授業プリント (記述の点検)
			18. 健康に関する意志決定・行動選択	1)意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 2)適切な意思決定・行動選択を実現する工夫		
2 3	2 3	3	19. 健康に関する環境づくり	1)健康を保持増進するための環境 2)ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくり ⑬イッキ飲みを防ごう ⑭望ましくない習慣をやめる作戦を考えよう ⑮暮らしているだけで健康になる環境を考えよう	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
			1. 事故の現状と発生要因	1)事故とその被害 2)事故の発生に関連する要因		
2 3	2 3	3	2. 安全な社会生活の形成	1)自他の安全を確保する行動 2)安全を確保する社会の取り組み	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
			3. 交通における安全	1)交通事故防止のための取り組み 2)交通事故と運転者の責任 ①時間の流れにそった防災・避難計画を作ろう ②犯罪から身を守ろう		
2 3	2 3	3	4. 応急手当の意義とその基本	1)応急手当の意義 2)応急手当の手順	a b	定期テスト 学習ノート・ 授業プリント (記述の点検)
			5. 日常的な応急手当	1)けがに応じた応急手当 2)熱中症の応急手当		
2 3	2 3	3	6. 心肺蘇生法	1)心肺蘇生法の意義と方法 ③心肺蘇生法を実習しよう	a b	定期テスト 学習ノート・ 授業プリント (記述の点検)

計 35 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各学期の定期考査終了後、副教材として使用するノートやプリント類の提出がある。
- ・グループワークや実習の記録、レポート作成などを取り入れる予定である。

7 担当者からの一言

1年次の保健では、現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深め、個人的視点にとどまらず社会全体における健康・安全を考え、日常生活に生かすことができるように学習を進める。また、グループワークなどを通して自分の意見を主張したり他者の考えを聞いたりし、それを共有、共感し、共に課題を解決していく力を身に付けていく。(担当：菅 耕二郎)

教科(科目)	芸術(音楽I)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	教育芸術社「MOUSA 1」				
副教材等					

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 指導の重点

- ① 基本的知識・技能の習得を目指します。
- ② 音楽表現を創意工夫したり、よさや美しさを深く味わう力を確立させることを目指します。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度を育てます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めようとしている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【 40% 】	思考・判断・表現 b 【 40% 】	主体的に学習に取り組む態度 c 【 20% 】
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めようとしている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技テストの分析 ・授業中の演奏、発言、練習での表現の観察 ・学習ノート、プリントや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実技テストの分析 ・授業中の演奏、表情、行動や取り組みの観察 ・学習ノート、プリントや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み(表情、行動、演奏、発言)の観察 ・学習ノート、プリントや提出物などの内容の確認 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 5 6 7	歌唱	8	ポピュラー ソング	・正確な読譜や適切な発声に取り組む。 ・歌曲の歌詞と曲想を理解し、表情豊かに歌う	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	器楽	8	クラッピン グアンサン ブル リズム楽器 アンサンブル	・パートの役割を考えながら、正しいリズムで演奏する。 ・リズム楽器の2重奏・3重奏の演奏をする。	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	鑑賞	6	室内楽曲の 鑑賞	・楽曲の構造、歴史的背景及び文化的背景を理解し、曲を鑑賞する。	b, c	授業中の取り組みの観察 学習ノート
8 9 10 11 12	歌唱	8	ポピュラー ソング	・正確な読譜や適切な発声に取り組む。 ・歌曲の歌詞と曲想を理解し、表情豊かに歌う。 ・声の響きを考えながら、個性豊かな表現ができるようにする。	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	器楽	12	ギター基礎 練習 ミュージック ケベル	・クラシックギターの正しい運指の習得をする。 ・基礎的な演奏技能を身に付けて演奏する。奏法を工夫しながらギターで単旋律を演奏する。 ・ミュージックケベルの基礎を習得し、演奏する。	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	創作	4	リズム創作	・簡単なリズムの作り方を学ぶ。	a, b, c	授業中の取り組みの観察 学習ノート
	鑑賞	6	交響曲、ミュー ジカルの 鑑賞	・楽曲の構造、歴史的背景及び文化的背景を理解し、曲を鑑賞する。 ・作品の特徴、よさや美しさを味わって鑑賞する。	b, c	授業中の取り組みの観察 学習ノート
1 2 3	歌唱	6	民族と音楽	・歌詞と音楽との関わりを理解し、表現豊かに歌う。	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	器楽	6	ギター2重 奏	・クラシックギターで2重奏の練習をする。	a, b, c	実技テストの分析、授業 中の取り組みの観察
	創作	3	リズム創作	・様々なリズムを用いた創作に取り組む。	a, b, c	授業中の取り組みの観察 学習ノート
	鑑賞	3	諸民族の音 楽の鑑賞	・楽曲の構造、歴史的背景及び文化的背景を理解し、曲を鑑賞する。	b, c	授業中の取り組みの観察 学習ノート

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

- ・各学期に実技テストがあります。(学期により回数は異なります。)
- ・鑑賞教材では、感想などを書いて提出します。
- ・必要に応じて学習ノートを提出します。

7 担当者からの一言

一時間一時間の取り組みが大切です。練習では失敗を恐れず、積極的な態度で、授業に臨んで下さい。
(担当：天野 咲子)

教科(科目)	芸術(美術Ⅰ)	単位数	2単位	学年(文・理)	1学年(美術選択者)
使用教科書	高校美術(日本文教出版)				
副教材等					

1 学習目標

美術の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の芸術や芸術文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、想像的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ① 基本的な表現の技術の習得を重視し、作業を進める計画性能力を育てる。
- ② 他の作品や表現を理解し、自分の考えやアイデアを可視化する表現力を育てる。
- ③ 身の回りにあるデザインされたものや、表現作品を味わうことができる感性を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	・意図に応じて材料や用具の特性を生かそうとしている。	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ろうとしている。 ・デザインの機能や効果、目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ろうとしている。	・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表そうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・完成した提出作品から分析 ・作業中の用具の使い方を観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・完成した提出作品から分析 ・授業中の発言や質問から、課題への取り組みを観察 ・エスキースから分析 ・作品の説明文から表現の構想を分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や質問から、課題への取り組みを観察 ・エスキースから分析 ・作品の説明文から表現の構想を分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	オリエンテーション	2	教科書	年間授業課題の説明 美術における取り組みについて学ぶ	c	評価基準と評価方法を参照
5 6	絵画 デッサン	1 2	画用紙 パネル	形や立体感などを正確に表現する。	a b c	
7	デザイン	8	描画材 アクリル絵具 ケント紙 パネル	鉛筆を用いた表現世界を広げる。 素材による特性を学び、それを生かした表現を考える。	a b c	
夏期	映像メディア 写真撮影		カメラ	光と影、画面構成を考え、カメラの特性を生かして撮影する。	b	
9	絵画 木版画	1 6	彫刻刀 版画版 版画用紙 インク等	夏期課題の写真をもとに図案を作り、遠近法やデフォルム、版の重なり効果を考え構成し、表現する。	a b c	
10						
11						
12	デザイン	1 2	アクリル絵具 ケント紙 パネル	対象物のムーブメントを感じ、画面構成を考え、表現する。	a b c	
1	立体 塑像	1 0	石膏粘土 アクリル絵具 彫刻刀 粘土ヘラ	様々な角度からの見え方を考え、形や方向を意識して制作する。	a b c	
2						
3						
	鑑賞	1 0	教科書 DVD	各課題別に作品の鑑賞をし視覚的に学ぶ。西洋・日本美術史を作品や坂を通して学ぶ。	a c	

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・単元ごとに課題を提出することになります。
- ・提出する課題ごとに作品の意図や表現の構想について説明を書いてもらいます。
- ・授業内で作品についてプレゼンをし、廊下や文化祭で展示発表します。

7 担当者からの一言

美術 I では、様々な表現方法を体験しながら自己を見つめ、自己表現すべく制作意欲を高め、新たな感動や発見をしてもらいたい。そのためには、集中力を持って取り組んでほしい。

(担当：板谷 朋子)

教科(科目)	書道 I	単位数	2単位	学年(文・理)	1 学年
使用教科書	教育図書「書 I」 教育図書「書 I プライマリーブック」				
副教材等	教師制作のプリント等				

1 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方式や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統を基つき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい 捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感受性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>文字を素材とした表現活動を中心として、さまざまな題材について表現のねらいをもちながら自己表現を展開していく。</p> <p>(1) 「漢字仮名交じりの書」の学習では、身近にある題材や自らの思いや感動を表す語句を選んで表現し、芸術的な表現だけでなく、実用的な表現も高めていく。</p> <p>(2) 「漢字の書」の学習では、さまざまな書風にふれることによって表現技術を高め、それらを創作に生かしていく。</p> <p>(3) 「仮名の書」の学習では、その成り立ちを理解し、美しさや表現技法を学んでいく。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい 捉えたりすることができる</p>	<p>主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40 %】	思考・判断・表現 b 【40 %】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい 深く捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、 ・提出作品、ワークシートの確認</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ・提出作品、ワークシートの確認</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組みの様子 ・提出物やワークシートの提出状況の確認</p> <p>などから、評価します。</p>

5 学習計画

月	単元	授業数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4 5 6	漢字の書	20	・書写と書道	・「書写」と「書道」の関連及び違いについて理解する	a,	行動観察 プリント提出
7 8			・用具と用筆 ・姿勢と執筆法 ・楷書の用筆法 ・楷書による創作 ・創作作品の鑑賞 ・篆刻	・用具や用材によって、線室や表現が変わることを理解する ・正しい姿勢と執筆法を理解する ・様々な用筆を学び、字形と線質が作品の雰囲気などにどのように関連しているのかを理解する ・自分の思考や感動を表現できる語句を選び、楷書の特徴を理解し、表現方法を工夫して、作品を制作する ・制作した作品を鑑賞しあう ・自分の名前を字典で調べ朱文印か白文印で彫る	a, b a, b a, b, c	作品提出 制作プリント 作品提出 鑑賞カード
9 10 11	漢字仮名交じりの書	20	・新潟県競書大会作品	・課題の手本より一つ選択 ・清書を提出	a	行動観察 作品提出
12 1			・行書の表現と鑑賞 ・行書の執筆法 ・行書作品制作 ・行書による創作	・基本的な用筆法を学び創作を生かす ・行書の特徴を理解し、表現方法を工夫して、作品を制作する ・制作した作品を生徒同士で鑑賞しあう	a, b a, b, c c	行動観察 作品提出 制作プリント 作品提出 鑑賞カード
2 3	仮名の書	15	・漢字仮名交じりの書の美 ・紙面構成のバリエーション ・漢字仮名交じりの書の創作 ・創作作品の鑑賞	・書の幅広い表現方法を理解する ・文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける ・自分の思考や感動を表現出来る語句を選び、表現方法を工夫して作品を制作する ・制作した作品を鑑賞しあう	a a, c a, b, c c	行動観察 作品提出 制作プリント 作品提出 鑑賞カード
2 3	仮名の書	15	・仮名の表現と鑑賞 ・仮名の基本的な筆使い ・仮名の単体と連綿、変体仮名 ・散らし書き	・平安時代の名筆を通して、仮名の美しさとその特徴を鑑賞する ・仮名独特の基本的な用筆を身に付ける ・連綿、変体仮名を使いこなし、仮名の美を追求する ・自分で配置を考えて作品を制作する	a a, b a, b, c	行動観察 作品提出 作品提出 鑑賞カード

計70時間（50分授業）

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの授業時数合計	漢字の書	漢字仮名交じりの書	仮名の書
	40時間	15時間	15時間

6 課題・提出物等

- ・毎授業ごとに各題材の提出作品を制作し、提出する
- ・作品制作時の「制作プリント」
- ・自分の作品や友人の作品に対する「鑑賞カード」

7 担当者からの一言

「書道」は、筆と紙を通して自己表現することを目的とする芸術です。ただ文字を書くのではなく、文字に自分の思いや感情を込めて書きます。そのために、書道では筆順や筆の持ち方といった基本的なことをしっかりと身に付けたいと、自分の個性が出た作品を書けるようになってもらいたいと思っています。字をきれいに書けないからと気後れせず、一緒に文字を美しく書くことだけでなく基礎をしっかり学び、芸術の分野として楽しく学びましょう。
(担当：川村 則子)

教科(科目)	英語(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	3単位	学年(文・理)	1学年
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅠ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅠワークブック』 桐原書店『総合英語 FACT BOOK これからの英文法』 東京書籍『コーパス 3000』 桐原書店				

1 学習目標

- 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、次の1~3ができるようになることを目指す。
- 必要な情報を聞き取り・読み取り、話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。

2 指導の重点

- 「聞く」「話す(やりとり・発表)」「読む」「書く」という4技能5領域の活動を通じて総合的に学習します。
- ①事物に関する紹介や対話などを聞き、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする能力を養います。
 - ②説明文や物語文を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする能力を養います。
 - ③学んだことに基づき、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、簡潔に書いたりする能力を養います。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現し伝えあうなどしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図っている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現し伝えあうなどしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図っている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題テスト ・発表等の表現活動 ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言や取り組み ・提出物 ・パフォーマンステスト などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容) ※各単元において、[題材内容]を読み(聞き)、概要や要点をとらえる。また、学んだことに基づいて情報や考え、気持ちなどを表現する。	評価の観点	評価方法
4	Lesson 1	9	Have a Good Day with a Good Breakfast	[題材内容] 朝食の大切さ、理想的な朝食 [言語材料] 過去形・現在形・未来を表す表現 / 現在完了 / 現在進行形 / 命令文 (レシピ)	a b c	授業への取り組み 課題テスト 小テスト 課題提出
5	Lesson 2	10	A mascot with a Mission	[題材内容] 町おこしのキャラクターの役割 [言語材料] 文型①(SVC) (SV0) / 不定詞 / 動名詞	a b c	授業への取り組み 定期考査 小テスト 課題提出 音読テスト
6	Lesson 3	12	Two Kind of Leadership	[題材内容] 2つのタイプのリーダーシップ [言語材料] 受動態 / 関係代名詞 / 文型②(SV00) (SVOC)	a b c	授業への取り組み 小テスト パフォーマンス
7	Lesson 4	8	Older Sports and Newer Sports	[題材内容] 新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力 [言語材料] 最上級 / 比較級 / 原級	a b c	授業への取り組み 定期考査 小テスト 課題提出
8	Power Up Section L1-4	3	A morning meal etc.	[題材内容] 既習事項 [言語材料] 既習事項	a b c	授業への取り組み 課題テスト 課題提出
9	Lesson 5	11	AI meets the Arts	[題材内容] 芸術の世界にまで進出する AI (人工知能) [言語材料] 名詞を修飾する分詞 / 形式主語	a b c	授業への取り組み 定期考査 小テスト 課題提出
10	Lesson 6	12	What is Happiness?	[題材内容] 世界の人々の「幸福度」の違い [言語材料] 過去完了 / 関係副詞(when, where)	a b c	授業への取り組み 小テスト パフォーマンス
11	Lesson 7	9	The Maldives: A Dream Destination?	[題材内容] 人気の観光地が抱える問題 [言語材料] SVOC (V=知覚動詞・使役動詞) / SV0+to 不定詞	a b c	授業への取り組み 定期考査 小テスト 課題提出
12	Lesson 8	9	Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream	[題材内容] 世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro [言語材料] 関係副詞(how, why) / 関係代名詞(what) / 強調構文	a b c	授業への取り組み 小テスト パフォーマンス

1	Lesson 9	10	From Recycle to Upcycle	[題材内容] ゴミの再利用の新しい形「アップサイクル」 [言語材料] つなぎ表現 / 分詞構文①(～するとき) / 間接疑問文 / 現在完了進行形	a b c	授業への取り組み 課題テスト 小テスト 課題提出
2	Lesson 10	8	Diversity at Japanese Companies	[題材内容] 日本の会社における雇用の多様性 [言語材料] 仮定法過去 / 分詞構文②(～して、そして～) / 過去の習慣 would / 助動詞+be+過去分詞	a b c	授業への取り組み 定期テスト 小テスト 課題提出
3	Power Up Section L9-10	4	Three Approaches to Garbage Problems	[題材内容] 既習事項 [言語材料] 既習事項	a c	授業への取り組み

計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・長期休業中(夏・冬・春)に課題を課し、休み明けに課題テストを行います。
- ・毎週、単語テスト等の小テストを実施します。
- ・毎週、週末課題を課し、その中の一部を定期テストに出題します。
- ・その他にも、英作文・授業ノート・ワークブック等、定期的に提出物があります。

7 担当者からの一言

外国語の学習には、近道はありません。毎日の積み重ねが大切です。授業に積極的に取り組み、家庭学習の習慣をつけましょう。家庭学習で、予習復習・課題・小テストの準備を怠ることなく継続して行うことが学力伸長につながります。授業での音読練習やペア活動・グループ活動にも周囲と協力しながら積極的に取り組んでください。
(担当：西本 麻里)

教科(科目)	情報(情報 I)	単位数	2 単位	学年(文・理)	1 学年
使用教科書	実教出版『最新情報 I』				
副教材等	実教出版『ベストフィット情報 I』 実教出版『Excel でまなぶプログラミング』				

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 指導の重点

高校卒業後の多様な進路において、パソコンで最低限必要と思われる知識・技術を身につけてもらうことから、

- ① SNSの注意点などを含む情報モラルの知識の習得を目指します。
- ② 最低限のエクセルの技術の習得を目指します。
- ③ 簡単なプログラミングの知識・技能の習得を目指します。
- ④ パワーポイントを使った効果的なプレゼンテーションについての知識習得を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能【40%】	思考・判断・表現【40%】	主体的に学習に取り組む態度【20%】
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a【40%】	思考・判断・表現 b【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c【20%】
評価の観点	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善している。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実技テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実技テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題の内容 ・発表の様子 などから、評価します。
------	---	---	---

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	オリエンテーション	1		・コンピュータの基本操作と教室でのマナーを理解する。	c	授業の取組
	第1章 情報社会と私たち	1	1 情報社会	・情報社会の現状、情報の特性、情報モラル、情報化が個人に及ぼす影響について理解する。	a	授業の取組
		1	2 情報社会の法規と権利	・知的財産権、著作権について理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身につける。	a	
		1	3 情報技術が築く新しい社会	・社会の中で利活用されている情報技術について理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。	a b	
実習	3		・ワード実習	a, c	課題作成	
5	第2章 メディアと情報デザイン	3	1 メディアとコミュニケーション	・メディアの種類、発達、特性について理解する。 ・コミュニケーションの形態、特徴について理解する。	a b	授業の取組
		1	2 情報デザイン	・社会で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。	b b	
		2	3 情報デザインの実践	・レポートを作成するための手順について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Web ページ作成の方法について理解する	a a b	
	実習	4		・パワーポイント実習 ・Web ページ実習	b, c b, c	
6		2		・実技テスト ・1学期期末考査	a, b a, b	各テストの分析

7	第3章 システムとデジタル化	2	1 情報システム の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェイスについて理解する。 	b	授業の取組
		3	2 情報のデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの違いを理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組み、数量や文字のデジタル化、数値計算の方法、音声・静止画・動画、データの圧縮について理解する 	a b b a	
8	実習	1		ペイント実習	b, c	課題作成
9	第4章 ネットワークとセキュリティ	2	1 情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの構成、ネットワークを効率的に利用するための取り決め、Webページとメールの仕組み、ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。 	a	授業の取組
		2	2 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・脅威に対する様々な安全対策、情報セキュリティを確保するため方法と技術、情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 	b	
10	第5章 問題解決とその方法	2	1 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手順、問題の発見の方法、問題を明確化する方法、解決案を検討したり、整理・分析したりする方法、合意形成を目指した解決案を決定する方法、実行した解決案を評価する方法について理解する。 	b	授業の取組
		2	2 データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・データを収集したり、整理したりする方法、表計算ソフトの活用方法、データを適切なグラフや図に表現する方法、データ分析の手法、データベースの種類とその仕組みについて理解する。 	b	
		2	3 モデル化	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化の意味、モデル化の分類について理解する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、様々なモデル化を作成する。 	a	
		2	4 シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。 ・問題解決のためにシミュレーションを活用する。 	b	
11	実習	15		エクセル実習	a, c	課題作成

12		2		・実技テスト ・2学期期末テスト	a, b a, b	各テストの分析
1	第6章 アルゴリズムとプログラミング	2	1 アルゴリズムとその表記 2 プログラミングの実践	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・変数・関数を使用したプログラムを作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。	b a a a	授業の取組
2,3	実習	7		プログラミング実習	a, c	課題作成
		2		・実技テスト ・学年末テスト	a, b a, b	各テストの分析

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

- ・授業内扱うワード・エクセル・パワーポイント・プログラミング等の課題を毎学期確認します。
- ・課題作成の時間は期限を設定しています。

7 担当者からの一言

ワード・エクセル・パワーポイント・プログラミングの操作は社会に出てから必須となります。授業を通してコンピュータの基本操作とともに上記のアプリの使い方を学びます。また、スマートフォンの使用方法などの情報モラルについても学び、情報社会に参画する態度を養います。実技科目のため、演習が多くなります。毎時間の課題をこなし、実力をつけていきましょう。

(担当：大橋 慎太郎)

